

[氏名] 山本 幾生

哲学倫理学専修

[専門分野] 哲学 近現代哲学

	<p style="text-align: center;"><b>新入生へのひとこと</b></p> <p>大学生であることを楽しんでください。 それには大学でしかできない自分自身の研究テーマを見つけることです。どの専修に所属するにしても自分が一番やりたいテーマを見つけてください。 これは！というテーマにのめりこむと楽しいものです。これは大学でないと味わえない楽しみです。</p>
<b>講義のテーマと内容</b>	
<p>(シリーズ1) 古典と私 講義テーマ:「自己の死」 「誰でも必ず死ぬ。自分も例外ではない」。それでは、どうして、未来のいつ来るとも知れない自分の死について、自分も必ず死ぬのだということを分かっているのでしょうか。この、なんとも奇妙な問いに答えているのが、ハイデガーの『存在と時間』です。私 が学部生のときに出会った 現代哲学の古典 です。 授業では、私が古典と出会った学部生時代の思い出話から、まず、 出会い そして 問いと答え ということについて考えてみます。そして、ハイデガー『存在と時間』の内容を参考にして、「自己の死」について考えてみます。</p> <p>(シリーズ2) 現代と私 講義テーマ:「VRを哲学する」 VR (Virtual Reality 仮想現実) や AR (Augmented Reality 拡張現実) は、コンピュータ技術が飛躍的に進歩した現代を特徴づける装置の一つです。授業では、VR や AR とはどのような装置なのかを紹介し、VR 以外に私たちにもっと身近な夢や小説や童話などの仮想や虚構について触れながら、現代という時代の現実の形成について考えてみます。身近な問いを挙げておきましょう。 問い: 現実とは虚構や仮想とは無縁なのだ、現実を変えることなどできないのだ、とふつつ思われていますが、はたしてそうでしょうか。これに対して授業では、現実とは活き活きと変わり、虚構もまた私たちの現実を形成しているのではないかと、そんな結論へ導いていきます。問いも結論もいたってシンプルです。</p>	
<b>リレー講義の参考文献</b>	
<p>(シリーズ1) 古典と私 : 授業中に出てくる古典です。 ・ハイデガー 『存在と時間』 ちくま学芸文庫 (ほかに岩波文庫など) ・フッサール 『現象学の理念』 みすず書房 ・フッサール 『純粹現象学および現象学的哲学のための考案 (イデー)』 みすず書房 ・ライプニッツ 『形而上学叙説』 中公クラシックス ・九鬼周造 『偶然性の問題』 岩波書店 (『九鬼周造全集』第2巻)</p> <p>(シリーズ2) 現代と私 : 授業内容についての参考書です。 このテーマについて私自身の考えを著したもの: ・山本幾生 『実在と現実 リアルティの消尽点へ向けて』 関西大学出版部、2005年。 ・また、ショーペンハウアー (1788-1860) という哲学者の文脈でごく簡単に纏めたものとして 「バーチャリティとリアリティ」 『ショーペンハウアー研究』 4号、1999。これは次のURLで読めます。 <a href="http://www.schopenhauer.org/organ/beitraege.html">http://www.schopenhauer.org/organ/beitraege.html</a> このテーマを考えるきっかけとなった哲学者 (デイルタイ) についての紹介書: ・西村皓ほか編 『デイルタイと現代』 法政大学出版局 2001年。 VR についての紹介書と哲学的な書: ・荒俣宏 『VR 冒険記 - バーチャル・リアリティは夢か悪夢か』 ジャストシステム 1996年。 ・マイケル・ハイム 『仮想現実のメタフィジクス』 田畑暁生訳 岩波書店 1995年。 哲学の分野での実在性の問題についての簡単な紹介: ・バートランド・ラッセル 『新版・哲学入門』 現代教養文庫 (A013) 社会思想社 1996年。</p>	

## 二回生以降に展開される授業内容（予定）

### 【授業科目について】

担当する授業科目は毎年固定しているわけではありません。これまで、全学科目では「哲学を学ぶ」、そして専門科目では「哲学倫理学基礎演習」「哲学演習」「卒業演習」「哲学概論」「西洋近代哲学」などを担当してきました。

2010年度からカリキュラムが改定され、専門科目では哲学倫理学専修の「哲学倫理学専修研究」「哲学倫理学専修ゼミ」、それ以外では「哲学概論」などを担当します。

### 【授業内容について】

全学科目や概論の授業では、哲学とはどのような学問であり、どのような問題が考えられてきたのかを、哲学の歴史を振り返りながら広く概説します。

専修専門の「専修ゼミ」では、皆さんが自分のテーマを見つけて自分で考えるための材料提供とアドバイスの役に徹しています。発表とディスカッションを中心にして授業を進め、テキストやテーマをサンプルとして選ぶ時は、「自己と他者」「存在と認識」「言語と世界」「実在と観念」「存在と無」などに関わる問題を扱うことが多いです。

そして「専修研究」では、伝統的な考え方（思考様式）に反対する動向（19世紀から20世紀）のなかでどのような新たな考え方が提示されたのかを皆さん自身が批判的に考えることを目指した内容にしています。

## 専門分野の紹介

### 1) 時代・地域・人物

近現代の哲学、そのなかでも特にドイツ語圏の哲学をおもに研究しています。哲学者としては、ハイデガー、デールタイ、ニーチェ、ショーペンハウアーなどです。

また、ニーチェとハイデガー以降の哲学の展開（フランス語圏のデリダやフーコー、また英米圏の分析的哲学）についても授業や卒業論文指導で扱います。

### 2) テーマと問い

近年のめりこんできたテーマとしては「実在と現実」。現実のこの生（生活）にリアリティを感じたり感じなかったりするのはどうしてなのか、また、虚構（小説、童話、VR等）は、通常、実在から排除されるが、実在と共に私達のこの現実の生を形作っているのではないか、こんな素朴な問いが研究の出発点です。

いつも気になっているテーマは「無」や「否定」です。これは東洋哲学（インド、中国、日本）でもテーマにされますが、私は西洋哲学の伝統の中で研究しています。「無」は「存在」するのか、という問いほど矛盾した問いはありませんが、こんな奇妙な問いが研究の出発点です。

## その分野を知るためのおすすめの図書

### 私が専門分野に入っていききっかけとなった原典

ハイデガー 『存在と時間』『形而上学とは何か』（『ハイデッガー全集』創文社）

デールタイ 『外界の実在性論考』（『デールタイ全集』第3巻、法政大学出版）

ニーチェ 『権力への意志』（『ニーチェ全集 12』ちくま学芸文庫）

ショーペンハウアー 『意志と表象としての世界』（白水社）

ワイトゲンシュタイン 『哲学探求』『論理哲学論考』（『ワイトゲンシュタイン全集1・8』大修館書店）

### 関連する文献、参考書、など

上記「リレー講義の参考文献」に挙げた書はみな、おすすめの図書です。

その他、入門書や読みやすい図書

・北川東子『ハイデガー 存在の謎について考える』（NHK出版）

・山崎庸佑『ニーチェ』（講談社学術文庫 1210）

・齋藤ほか編『ショーペンハウアー読本』（法政大学出版局）

・グッドマン『世界製作の方法』（ちくま学芸文庫）

・熊野純彦『西洋哲学史 古代から中世へ』『西洋哲学史 近代から現代へ』（ともに、岩波新書）